



●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険または物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

●吊込み後、本体をゆすって外れないことを確認してください。吊込みが完了していないと、本体が落下するおそれがあります。

■取付け上のおお願い

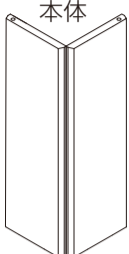
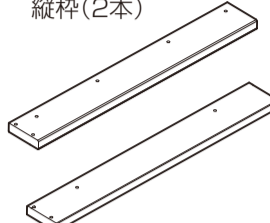
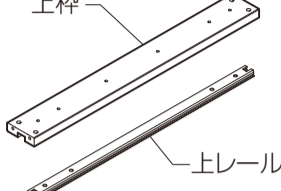
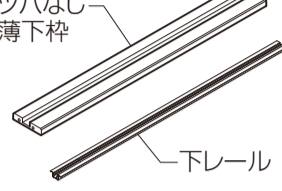
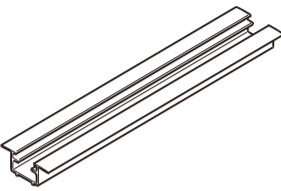
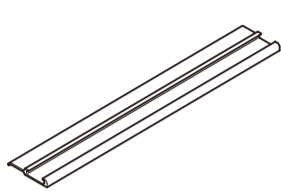



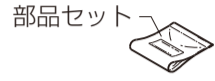
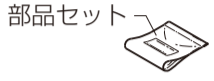

- 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず施工前にお買求め店までご連絡ください。施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。
- 運搬・加工の際は、傷つかないように取扱ってください。また、水・直射日光の当たる場所に、開梱状態で置かないでください。
- 造作枠・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
- 本製品は下荷重方式のため床面で重量を受けますので、本体重量に耐える床面仕上げにしてください。
- 梁またはまぐさが軽量鉄骨の場合は、ねじ保持力が弱いいため直接固定しないでください。必ず枠と軽量鉄骨の間に木枠を入れて取付けてください。
- 造作材・建具枠の下地材は、必ず乾燥材(含水率20%以下)を使用してください。湿潤材は使用しないでください。
- 造作材を取付けるときは、必ず接着剤(現場手配)を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤(現場手配)を塗布してください。
- 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」またはノンホルムタイプを使用してください。
- 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから施工してください。
- 本製品の組立て・施工時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の落下や、枠の垂れ下がりゆがみなどの原因となります。(本説明書内で「現場手配」と明記されている場合は除きます。)
- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじ頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 組立てねじは、縦枠とねじ頭が面一になるまで締込んでください。ただし、たたき込まないようにしてください。保持力低下の原因になります。
- 各部材のガイド穴にゴミが入らないようにしてください。
- 枠の組立て後、ねじれ・引っ張りなど無理な力を加えないでください。破損する原因になります。
- 枠を取付ける際、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 枠はたおれ、傾き、タイコ、ツヅミ、ねじれがないように取付けてください。
- 上枠取付けねじの締めすぎにご注意ください。上レールを変形させると本体の開閉不具合につながります。本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。
- フラット下レールを固定する床(下地)は、段差やすき間がないように仕上げしてからレールを固定してください。フラット下レールや埋込下枠を取付けるねじは、締めすぎないようにしてください。フラット下レール・埋込下枠が変形し、本体開閉不具合の原因となります。
- 本体は落下させたり、立てかける時に衝撃を与えないでください。本体部品が損傷し、開閉に支障をきたす原因になります。
- 本体の吊込みは2人作業で実施してください。
- 本体吊込みの際は、ガイドローラーが下レールに入っていることを確認し、ガイドローラーで枠や床面などにキズを付けないようにしてください。
- ガイドローラー・軸ピボット(上・下)を圧入する際は、当て木を使用してください。ガイドローラー・軸ピボット(上・下)の破損・変形により、開閉に支障がでるおそれがあります。
- 把手穴を貫通する際は、バリ発生防止のため本体表側に必ず当て木をしてください。それでもバリが出た場合は、無理にはがさず、そのまま把手を取付けてください。(多少のバリは把手の下に隠れます)
- 本体の把手に重量物をぶらさげないでください。把手が壊れ落下するおそれがあります。
- 召合せ部品の中央部の取付け位置は、隣り合う本体の段差が、目立つ位置に取付けてください。
- 収納内部側に棚や収納部材を配置する場合は、本体および召合せ部品と干渉しないよう枠端部から25mm以上離してください。本体裏側の召合せ部品は、枠端部から最大で15mmはみ出します。
- 製品取付けの際の建具養生シートにテープ(ガムテープ、養生テープ、マスキングテープなど)を直貼りしないでください。テープをはがす際、表面シートを傷めたり、テープの粘着剤が表面シートに付着したまま残ることがあります。

■本体保管上のおお願い

- 本体のソリ・ねじれ防止のため、下記場所に置いたり、保管しないでください。
・直射日光の当たる場所 ・昼夜などで温度差の激しい場所 ・湿気の多い場所
 - 本体を長期間保管する場合は、寝かせた状態で保管してください。立て置きでの保管はソリ・ねじれなどの原因になります。
- ※建築工事中は、本体を養生・保全のため取外しておき、取付け完了後に吊込むことをおすすめします。

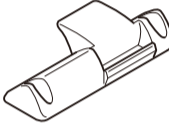





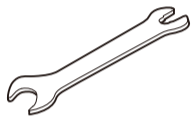
■部品・部材の明細

■部材の明細




折れ戸本体	縦枠	上枠	ツバなし薄下枠	埋込下枠	フラット下レール
 <p>本体</p>	 <p>縦枠(2本)</p>	 <p>上枠 上レール</p>	 <p>ツバなし薄下枠 下レール</p>	 <p>埋込下枠</p>	 <p>フラット下レール</p>
別売り部品セット					
 <p>本体用部品</p>	 <p>把手セット</p>				
		 <p>部品セット 取付け説明書</p>	 <p>部品セット</p>	 <p>部品セット</p>	 <p>部品セット</p>

※枠はノックダウン、本体は完成品になっています。
※縦枠・上枠・下枠は、それぞれ別梱包になっています。

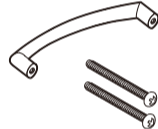
■本体用部品 (別売り)

部品名称	召合せ部品	召合せ部品 固定用 トラスタッピンねじ φ3.5×16	戸当り部品	戸当り部品 固定用 なべタッピンねじ φ3×25	軸ピボット(上)	軸ピボット(下)	ガイドローラー	調整スパナ
呼称								
W07	—	—	1	1	1	1	2	1
W12・16・17	2	4	2	2	2	2	4	1


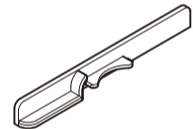
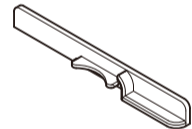

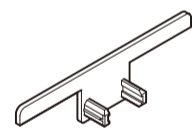

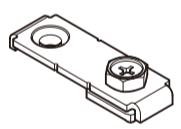
■枠用部品セット (上枠同梱)

部品名称	組立て用皿小ねじ M4×50	上枠取付け用 皿タッピンねじ φ4×50	縦枠取付け用 皿タッピンねじ φ4×50 (頭部シート色塗装)
呼称			
W07・12・16・17	4	7	8

■把手セット (別売り)

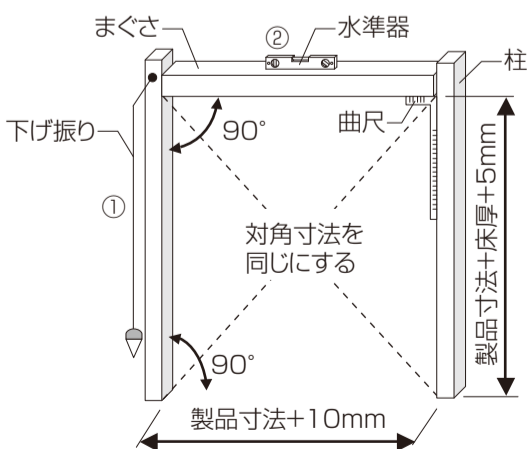
部品名称	把手セット (取付けねじ付)
呼称	
把手	1
取付けねじ	2

■下枠用部品セット (下枠同梱)

部品名称	組立て用皿小ねじ M4×50	フラット下レール 端部ピース 左用	フラット下レール 端部ピース 右用	フラット下レール 取付け用 皿タッピンねじ φ4×18	埋込下枠 端部ピース	埋込下枠取付け用 皿木ねじ φ3.5×20	下部ピボット受け
呼称							
ツバなし薄下枠	W07: 4 W12・16・17: 4	—	—	—	—	—	1 2
フラット下レール	W07: — W12・16・17: —	1 1	1 1	4 7	—	—	1 2
埋込下枠	W07: — W12・16・17: —	—	—	—	2 2	3 5	1 2

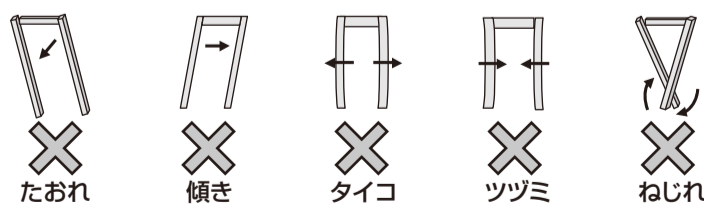
■開口部の作り方

●開口寸法



- ①下げ振りを使って、柱が垂直になるように取付けてください。
- ②水準器・曲尺を使って、まぐさが柱と垂直で、水平になるように取付けてください。

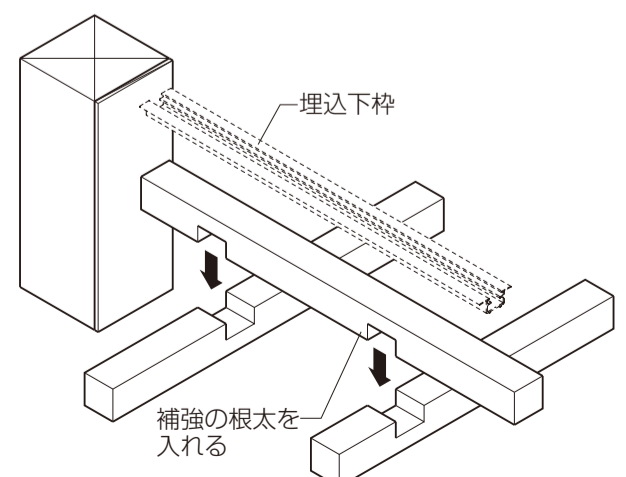
※柱、床、まぐさの水平・垂直がでていないと、枠が下図のようになり、不具合現象につながります。



■床の張り方

1 下枠の確認

- 枠材は捨て張り合板の上に施工するか、根太張り工法の場合は下図のように根太を入れて補強してから施工してください。下枠の破損や本体開閉不具合の原因となります。



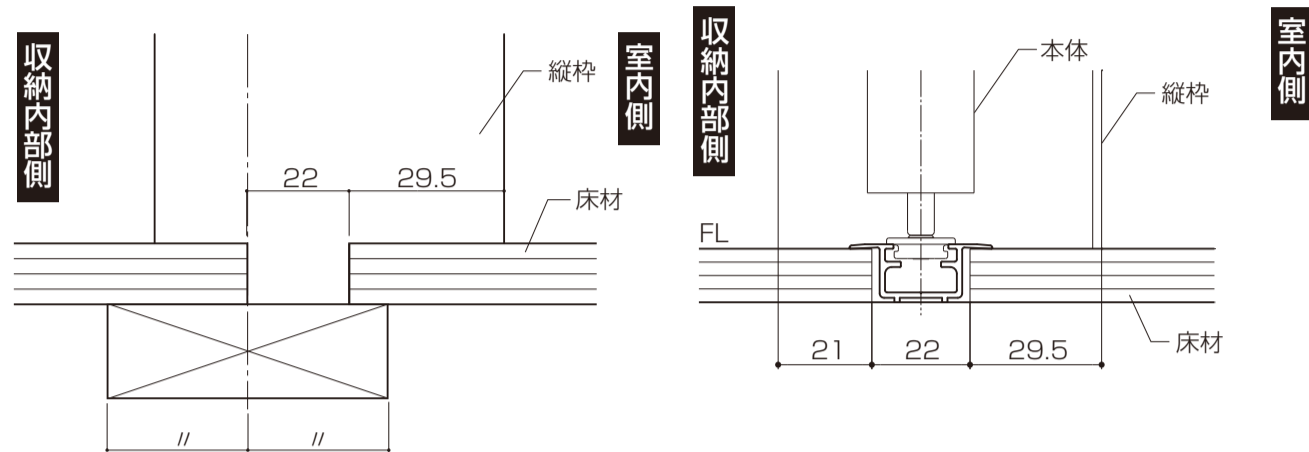
2 床張り位置

■床先張り(枠後付け)

【埋込下枠を使用する場合】

●床材間に埋込下枠が入りますので、室内側縦枠木口から29.5mm 内側の位置に22mmあけて、床材を張ってください。

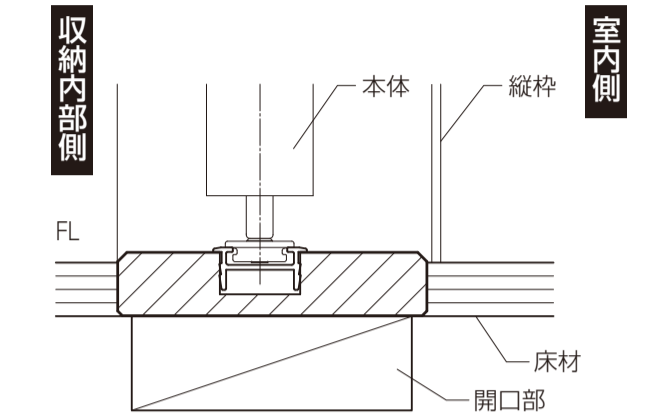
※床材の間口寸法(22mm)が大きすぎたり狭すぎると、床のすき間が見えたり埋込下枠が入りにくい原因となります。



■床後張り(枠先付け)

【ツバなし薄下枠を使用する場合】

●枠取付け後、縦枠・ツバなし薄下枠にそって床材を張ってください。



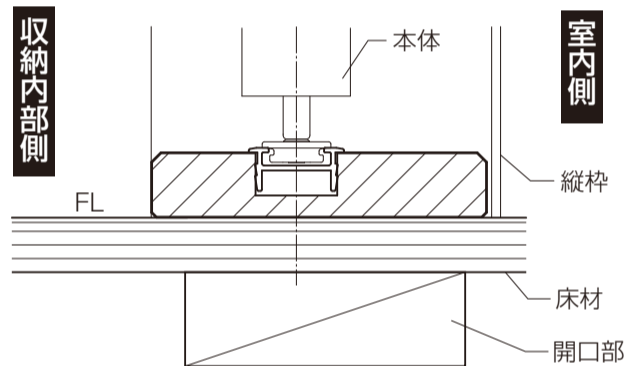
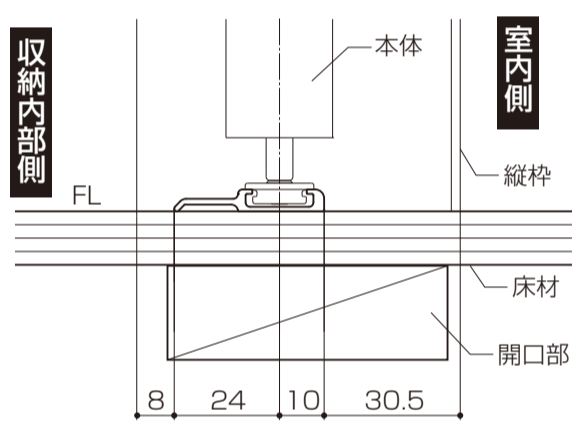
■床載せ納まり

【フラット下レールを使用する場合】

●床材を張ってから枠を取付けてください。
※床材をあけて張る必要はありません。

【ツバなし薄下枠を使用する場合】

●床材を張ってから枠を取付けてください。
※床材をあけて張る必要はありません。



■取付け順序

1 枠の組立て

■スベリ台付ピボット受け位置の変更 (W07 を左吊元で納める場合のみ)

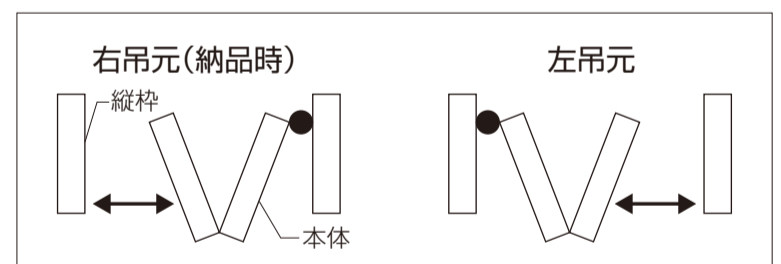
※右吊元の場合および、W12・16・17の場合は不要です。

①上枠の固定テープを外して、上レールを取外します。(固定テープは再利用しますので捨てないでください。)

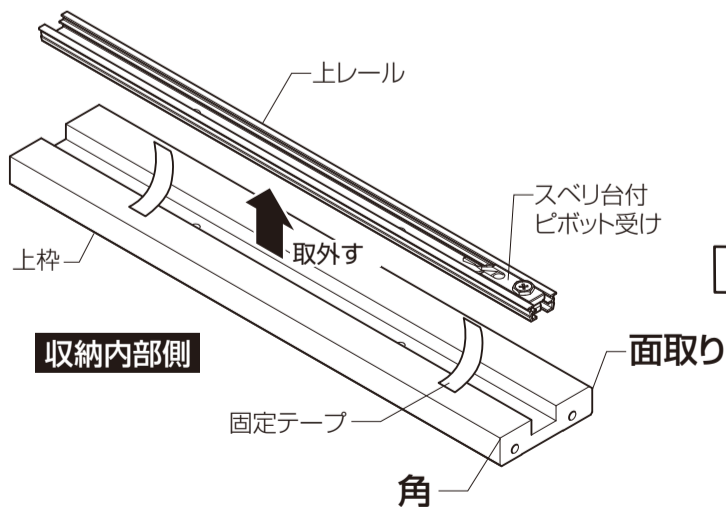
※上レールが取外しづらい場合は、上レールをスライドさせて、取外してください。

②上レールの左右を逆にして吊元を入れ替えます。(納品時は右吊元になっています。)

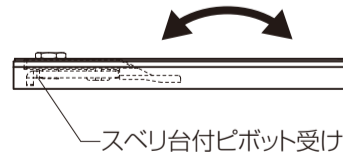
③上レールをはめ込み、固定テープで上レールを上枠に仮止めしてください。



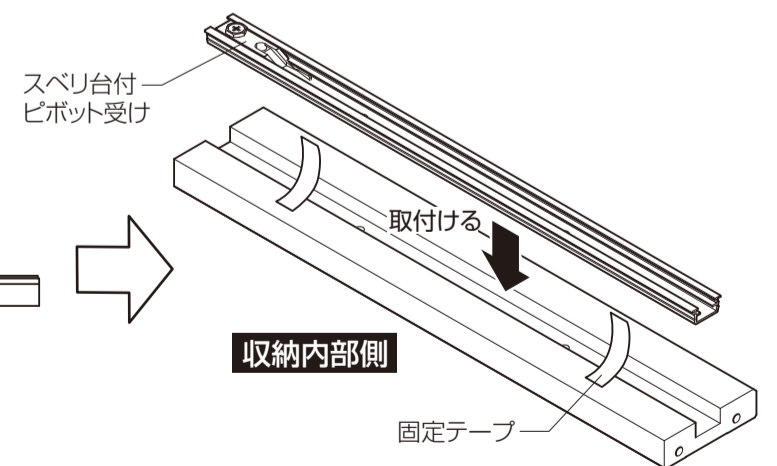
【右吊元(納品時)】



左右を入れ替える

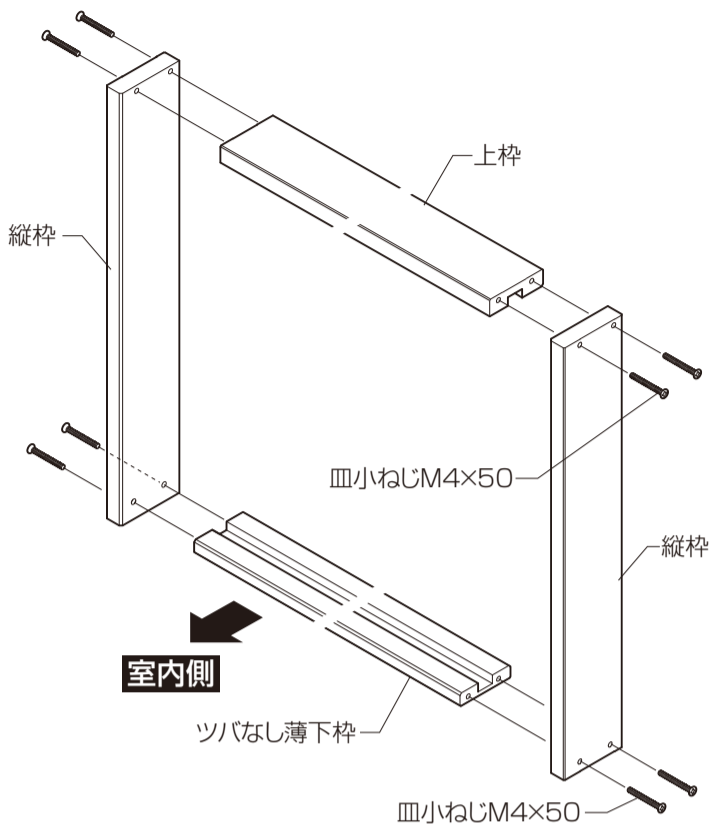


【左吊元】

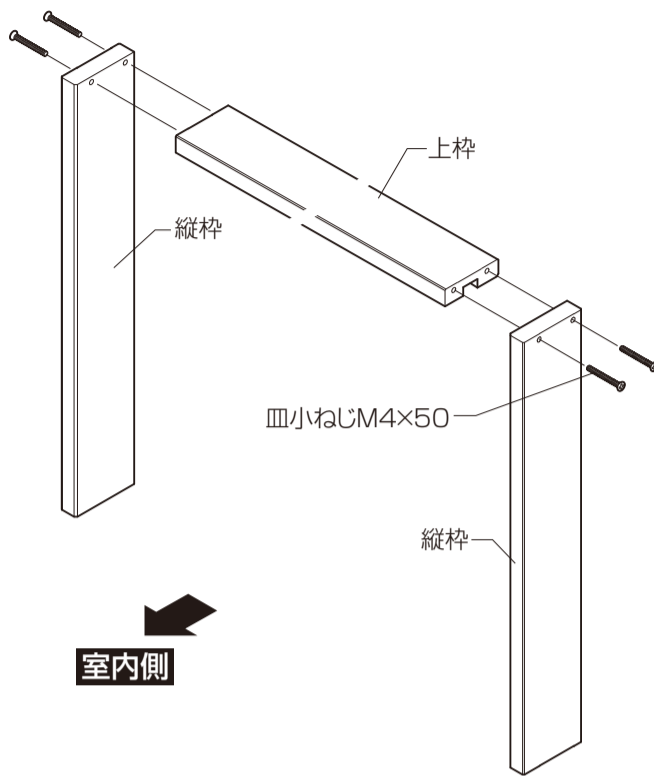


●下図のように各部材を組合せ、組立て用皿小ねじ M4×50で固定します。

【ツバなし薄下枠を使用する場合】



【埋込下枠またはフラット下レールを使用する場合】

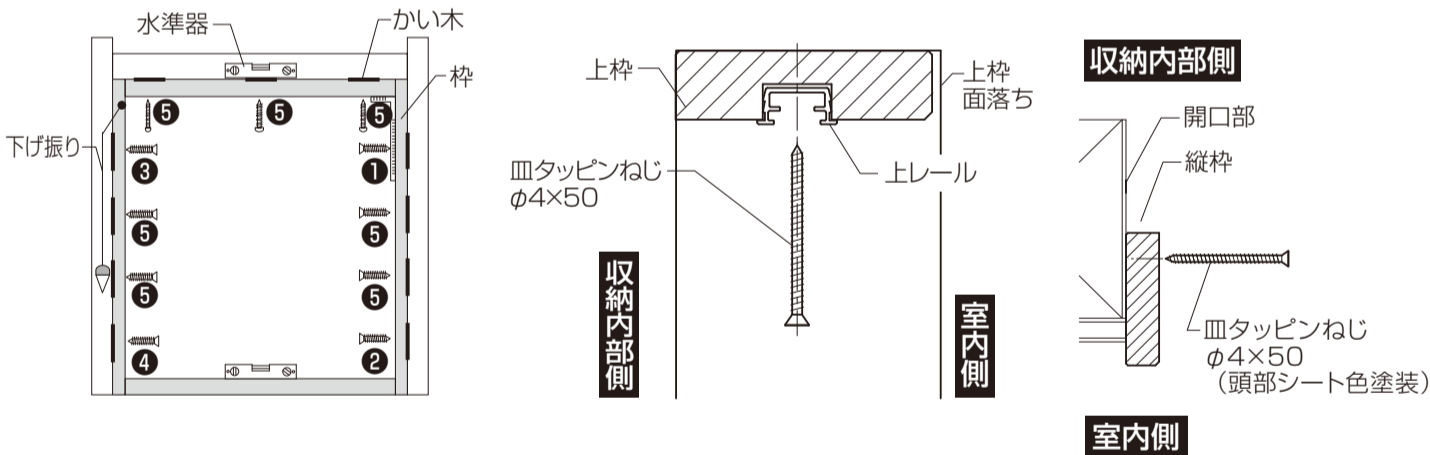
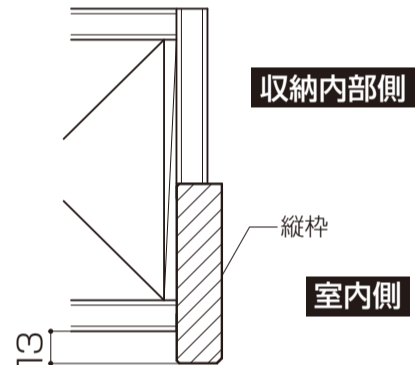


枠組立て上のお願ひ

- ※ガイド穴にゴミなどが入らないようにしてください。
- ※ねじは、たたき込まないようにしてください。保持力低下などの原因となります。
- ※枠組立て後、揺らす・引っ張るなどの無理な力を加えないでください。破損の原因となります。

2 枠の取付け

- ①上枠面落ち側が室内側になるように組立てた枠を開口部に入れます。
枠の固定位置を確認します。(仕上り寸法で室内側壁面ボードとのチリが13mmになるよう納めてください。)
 - ②下枠・上枠の水平を確認してから、縦枠の①を仮固定してください。
 - ③下げ振りを使って垂直・たおれがないことを確認してから、縦枠の②を仮固定してください。
 - ④水準器で下枠・上枠の水平を確認してから縦枠の③を仮固定してください。
 - ⑤下げ振りを使って垂直・たおれがないことを確認してから、縦枠の④を仮固定してください。
 - ⑥枠の水平・垂直を再度確認して、上下、左右のすき間をかい木で調整後、残りのねじで本固定してください。
- ※枠に水系を張るなどして枠が曲がっていないことを必ず確認してください。



上枠取付け上のお願ひ

※上枠取付けねじの締めすぎにご注意ください。上レールを変形させると本体の開閉不具合につながります。本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。

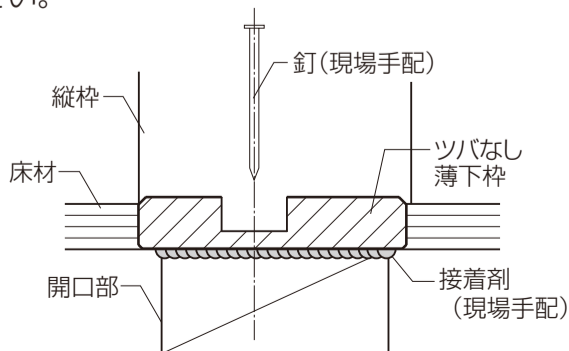
上枠が持ち上がらないように枠接合部にかい木を入れます。

かい木は100mm以上を使用して接着剤(現場手配)で接着してください。

■ツバなし薄下枠の取付け

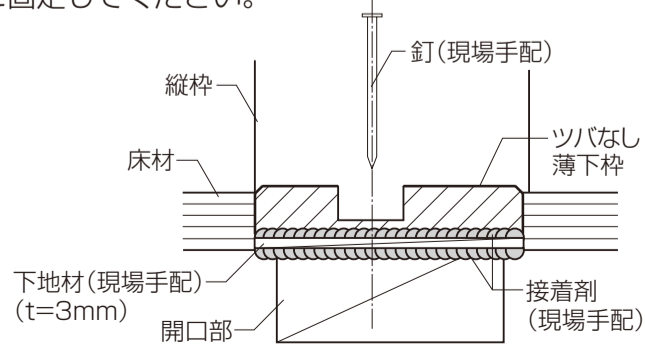
【床材厚さ12mm】

※必ずツバなし薄下枠に接着剤(現場手配)を付け、躯体に固定してください。



【床材厚さ15mm】

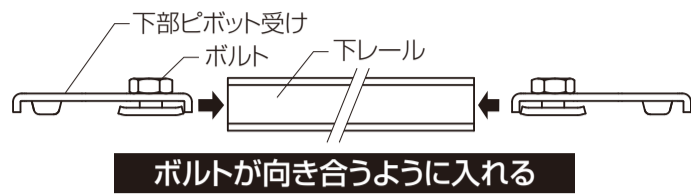
※必ずツバなし薄下枠と下地材(現場手配)に接着剤(現場手配)を付け、躯体に固定してください。



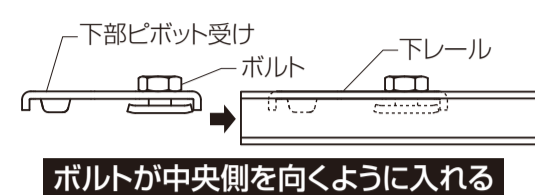
■下部ピボット受けの取付け

①下レールに下部ピボット受けを差込んでください。

【W12・16・17の場合】

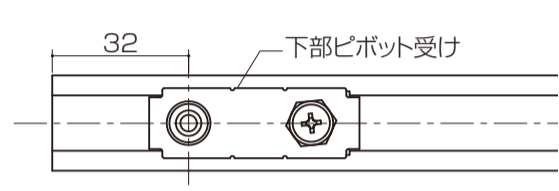


【W07の場合】

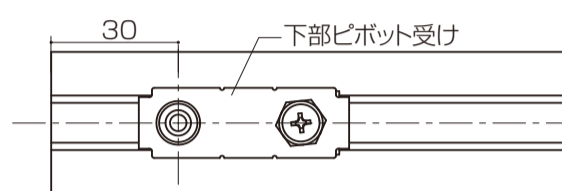


②下部ピボット受けのボルトをプラスドライバーで締め、固定します。
※下図を参照して、レール端部からの位置を合わせてください。(本体の吊込み後、ボルトは再度ゆるめ、建付け調整を行います。)

【ツバなし薄下枠の場合】

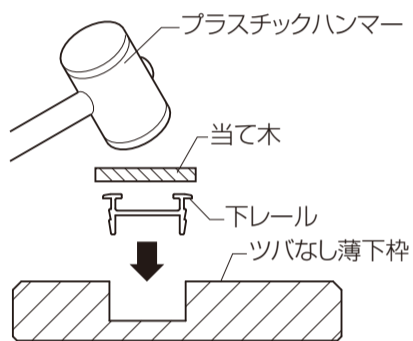


【フラット下レール・埋込下枠の場合】

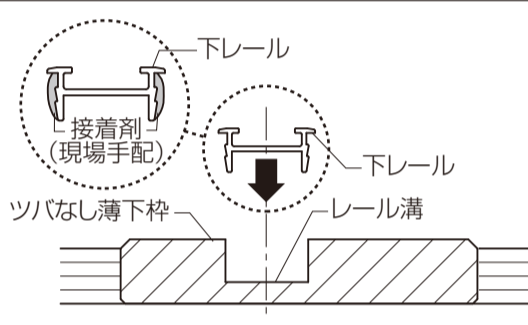


■下レールの取付け(ツバなし薄下枠を使用する場合のみ)

●ツバなし薄下枠の溝にプラスチックハンマーなどでたたき込んで固定します。



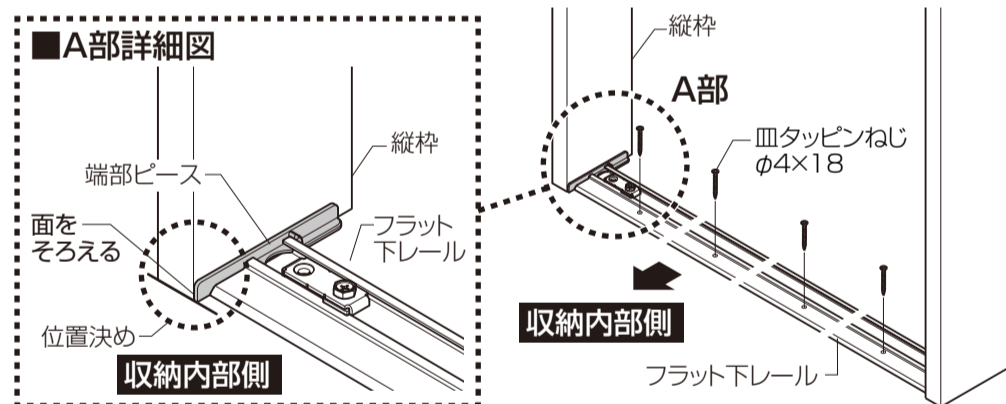
※接着剤(現場手配)は、レール溝にガタのある場合に使用してください。



■フラット下レールの取付け

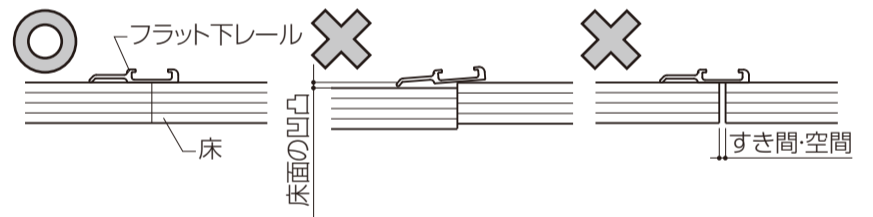
①A部詳細図のように、フラット下レールに同梱されている端部ピースをフラット下レールに取付け、収納内部側の縦枠面に合わせて位置決めしてください。

②フラット下レールをフラット下レール取付け用皿タッピンねじ $\phi 4 \times 18$ で固定します。



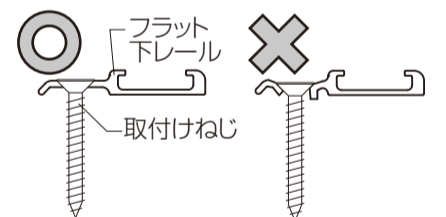
お願い

※フラット下レールを固定する床(下地)は、段差やすき間がないように仕上げしてからレールを固定してください。



お願い

※フラット下レールを取付けるねじは、締めすぎないようにしてください。フラット下レールが変形し、本体開閉不具合の原因となります。



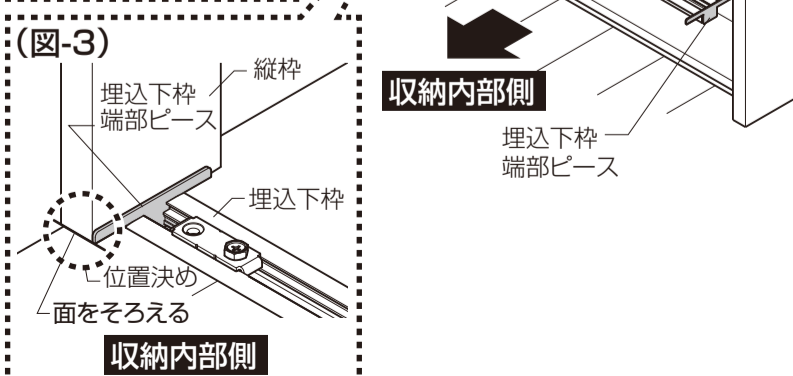
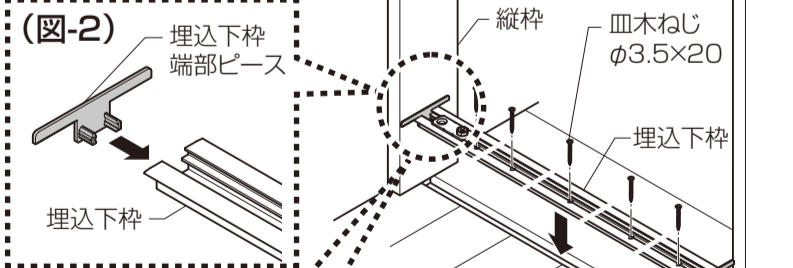
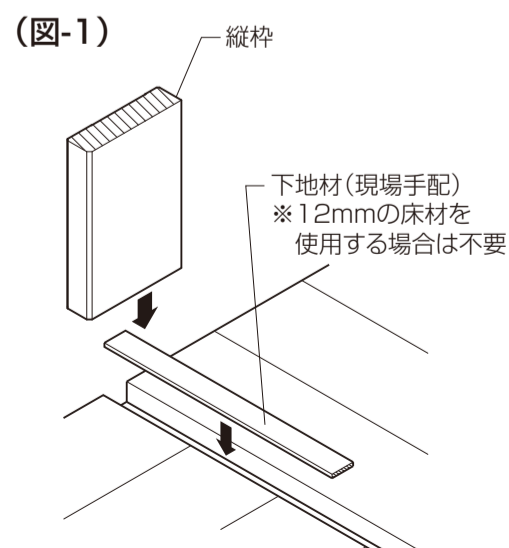
■埋込下枠の取付け

①(15mmの床材を使用する場合)下地材(現場手配)を床の開口部に取付けてください。(図-1)

②端部ピースを埋込下枠両端部に取付けた状態で床に埋込みます。(図-2)

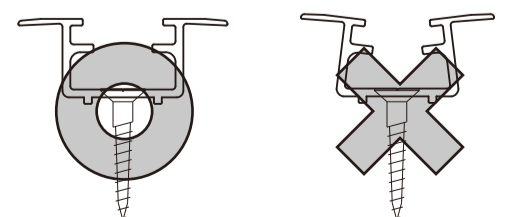
このとき、(図-3)のように収納内部側の縦枠に合わせて、位置決めをします。

③埋込下枠を埋込下枠取付け用皿木ねじ $\phi 3.5 \times 20$ で固定します。



埋込下枠取付け上のお願い

※埋込下枠取付けねじの締めすぎにご注意ください。埋込下枠を変形させると本体の開閉不具合につながります。本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。

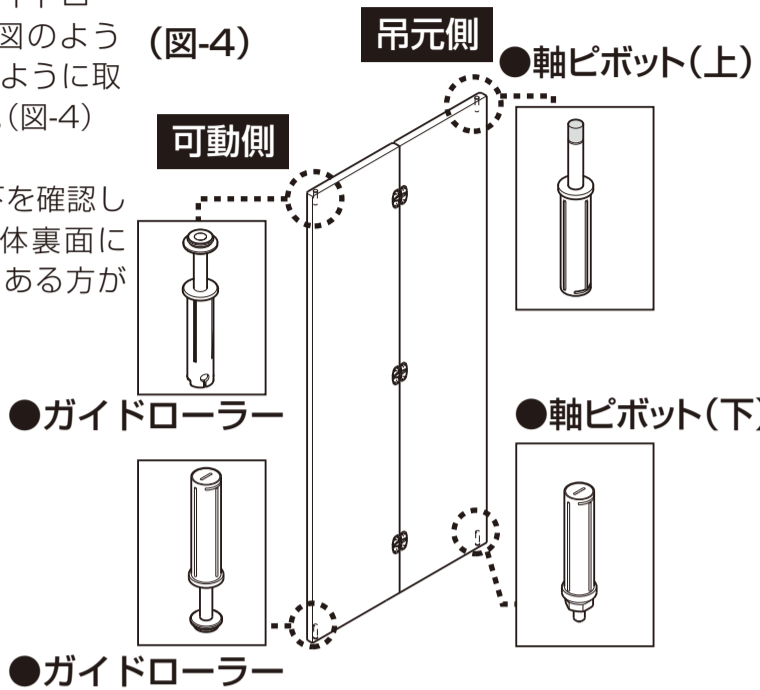


■本体の吊込み

■軸ピボット・ガイドローラーの取付け

注1) 軸ピボット・ガイドローラーは、必ず右図のような組合せになるように取付けてください。(図-4)

注2) 必ず本体の上下を確認してください。本体裏面にラベルが貼ってある方が下になります。

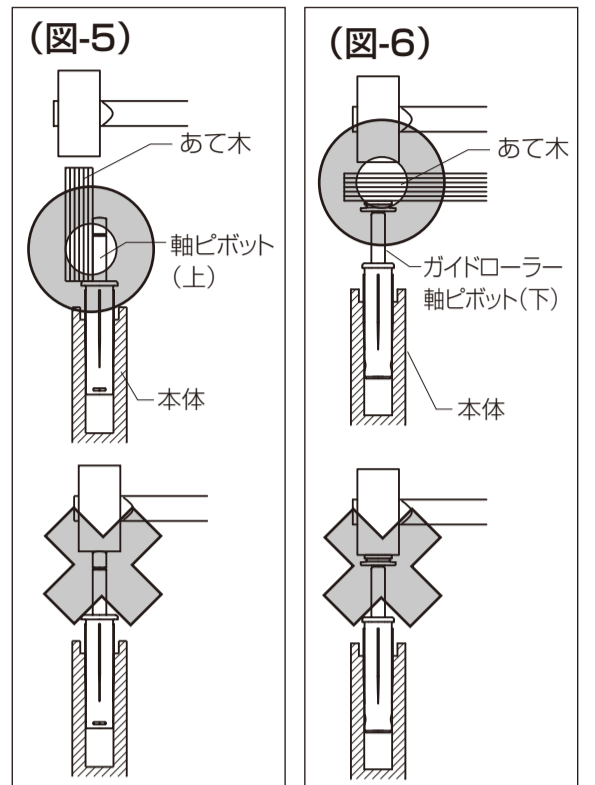


① 軸ピボット (上) を本体の取付け穴に差込みます。

※ 取付ける際は、右図のようにあて木を行い、ハンマーなどでたたき入れてください。軸をたたくとつぶれてしまいますので軸はたたかないでください。(図-5)

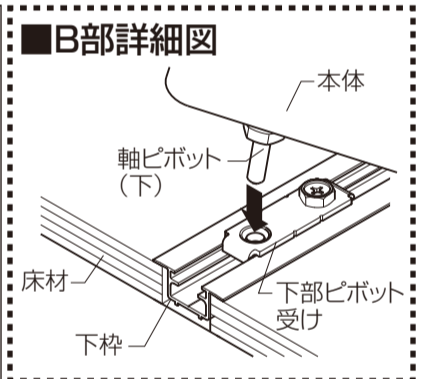
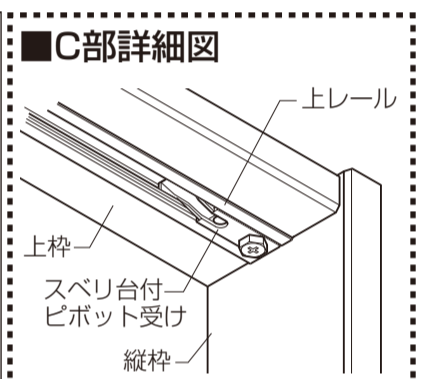
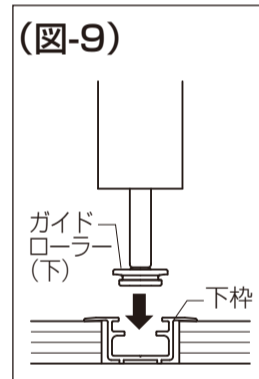
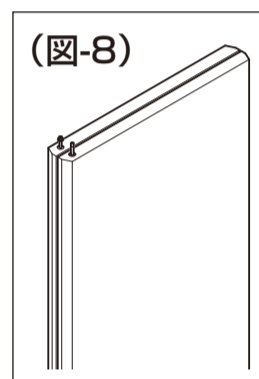
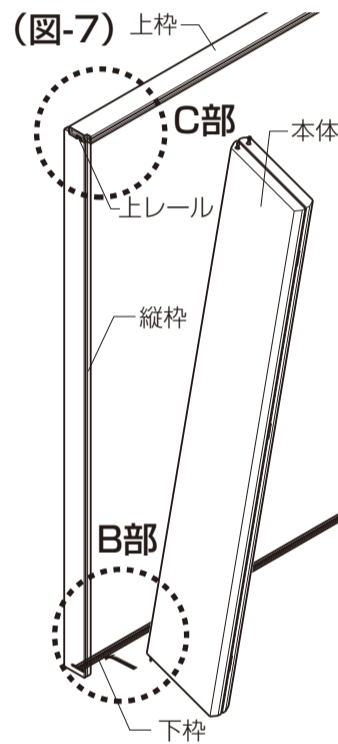
② ガイドローラーおよび軸ピボット (下) を本体の取付け穴に差込みます。

※ 取付ける際は、右図のようにあて木を行い、ハンマーなどでたたき入れてください。(図-6)



③ 本体を吊込みます。(図-7)

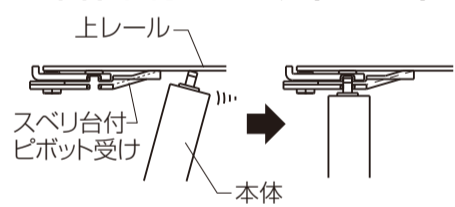
1. 図-8 のように本体をたたんだ状態でガイドローラー (下) を下枠の溝に差込みます。(図-9)
2. 下枠の下部ピボット受けに軸ピボット(下)を差込みます。(B部詳細図)
3. 軸ピボット(上)とガイドローラー(上)が上レールの溝に入るように本体を立てます。
4. 軸ピボット(上)がスベリ台付ピボット受けにはまる (『カチッ』と音がする)まで本体を立てます。(図-10)
5. もう片方の本体も同じ手順で吊込んでください。



●お願い

※ 本体の吊込み作業は2人作業で実施してください。

■本体取付け方法 (図-10)

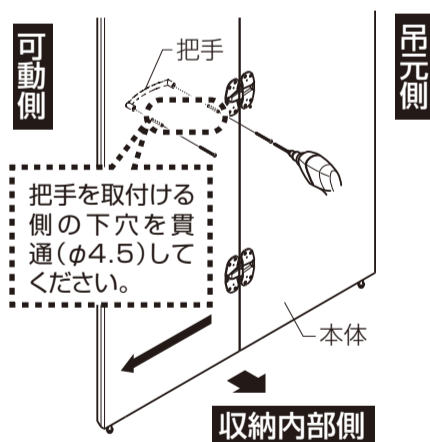


▲注意

● 吊込み後、本体をゆすって外れないことを確認してください。吊込みが完了していないと本体が落下するおそれがあります。

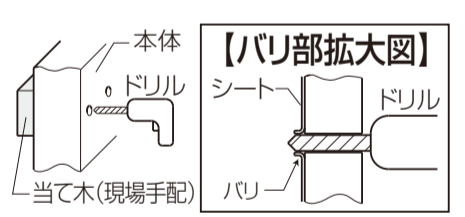
■把手の取付け

- 2枚の本体の裏側に把手取付け用の下穴が中間位置まであけてあります。把手を取付ける側の本体の下穴を貫通(φ4.5)してください。
- バリ防止のため、本体表側に必ず当て木をしてください。



把手取付け時のお願い

※ 把手穴を貫通する際は、バリ発生防止のため本体表側に必ず当て木をしてください。それでもバリが出た場合は、無理にはがさず、そのまま把手を取付けてください。(多少のバリは把手の下に隠れます)



●お願い

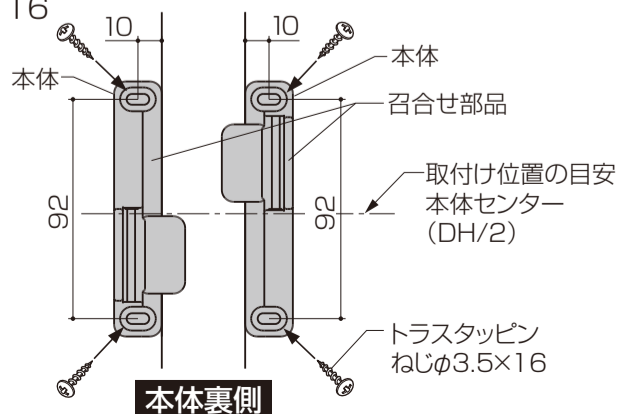
※ 把手は可動側の本体に取付けてください。吊元側の本体に取付けると開閉に支障がでるおそれがあります。

■召合せ部品の取付け (W12・16・17の場合)

● 召合せ部品によって本体同士の段差を防ぎ、すき間やガタツキを防ぎますので必ず取付けてください。

※ 本体裏側の中央部に召合せ部品を取付けます。図の取付け寸法を目安とし、下穴(φ2.5×16)をあけ召合せ部品固定用トラスタッピンねじ φ3.5×16

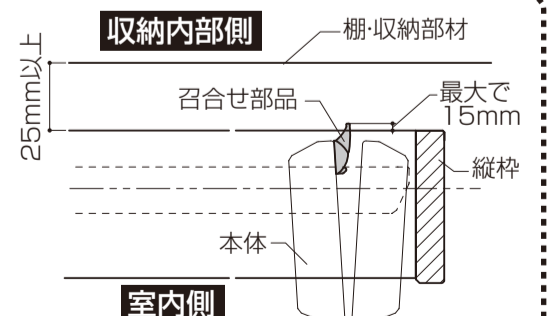
にて取付けてください。



■納まりについて (全サイズ共通)

●お願い

※ 収納内部側に棚や収納部材を配置する場合は、本体および召合せ部品と干渉しないよう枠端部から25mm以上離してください。本体裏側の召合せ部品は、枠端部から最大で15mmはみ出します。

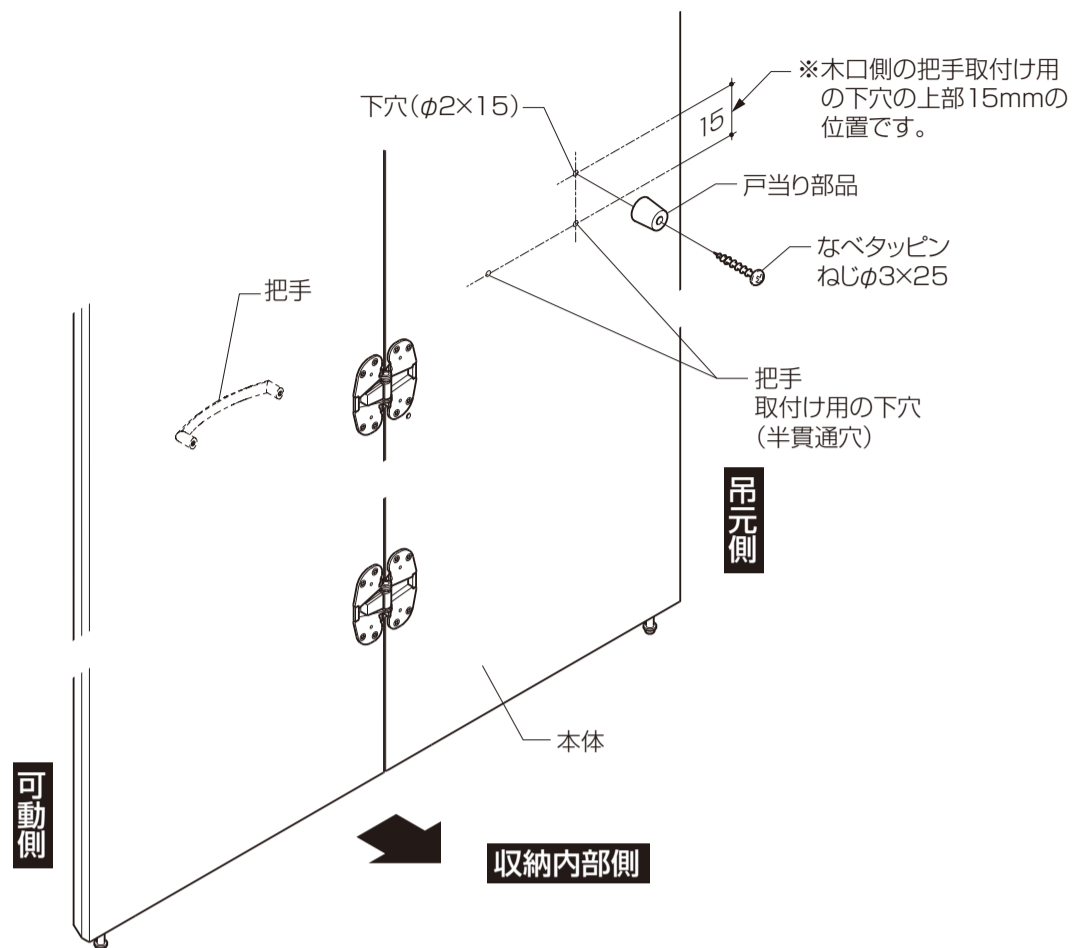


●お願い

※ 中央部の取付け位置は、隣り合う本体の段差が、目立つ位置に取付けてください。

戸当り部品の取付け

- 把手を取付けた本体の反対側の本体裏面に戸当り部品を取付けます。右図の取付け寸法を目安とし、下穴 (φ2×15) をあけ、戸当り部品固定用なベタタッピンねじφ3×25にて取付けてください。



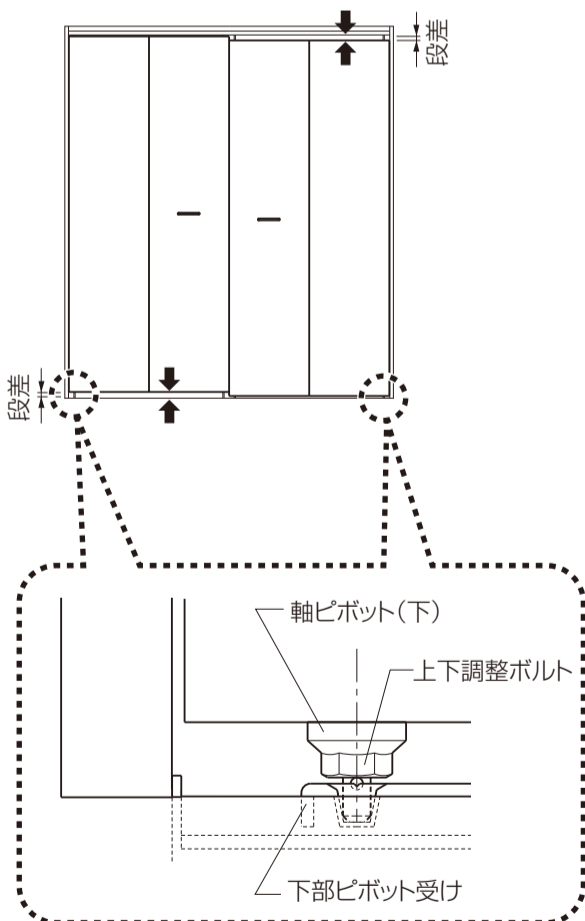
建付け調整

※本体の段違い(上・下)および左右のチリを調整します。

〈段違い(上・下)の調整〉

- 本体の取付け後、上下の目地が合っていない場合

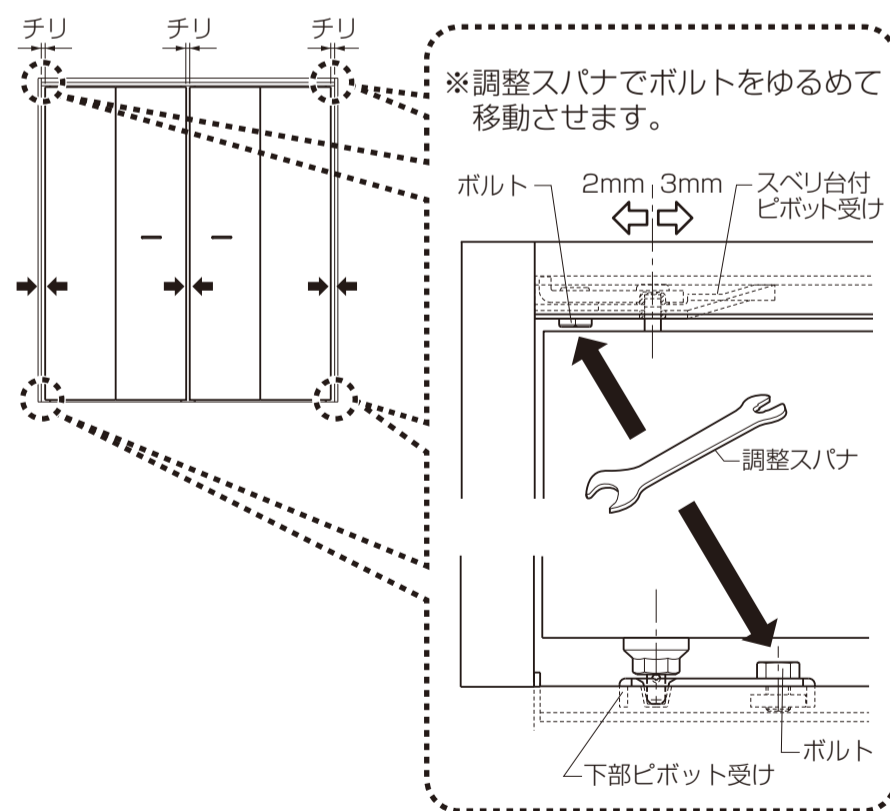
※同梱の調整スパナで軸ピボット(下)の上・下調整ボルトを回して調整します。
※上下調整量：±2mm



〈チリ(左・右)の調整〉

- 左右のチリが大きい場合

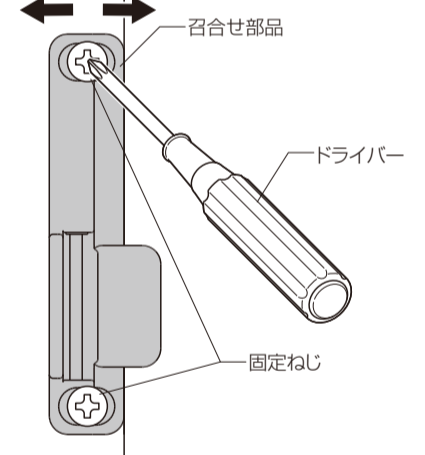
※同梱の調整スパナで上・下のピボット受けのボルトをゆるめ、左右方向の調整をした後、ボルトを締付けます。
※左右調整量：吊元側 2mm、可動側 3mm
注)調整完了後、上・下のピボット受けのボルトを同梱の調整スパナで本固定してください。



〈召合せ部品の調整〉

- 固定ねじをドライバーでゆるめて調整してください。

調整範囲2mmずつ



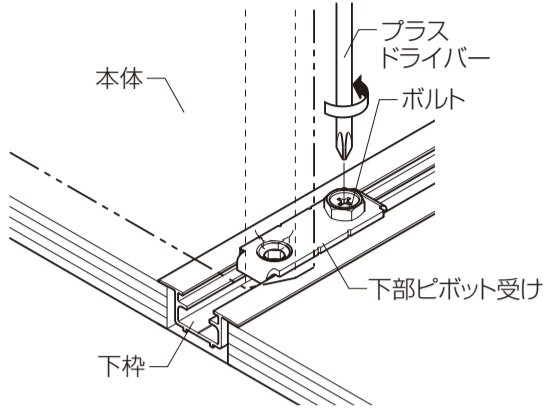
クローゼットドア
折れ戸
建付け調整動画



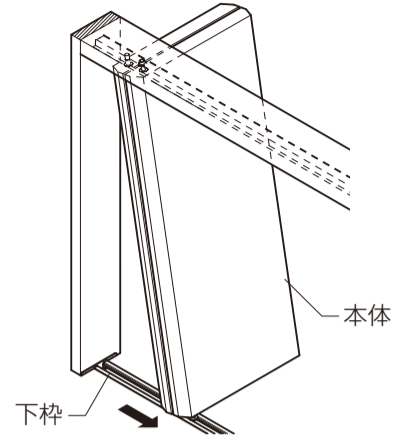
5744960441001

■本体の外し方

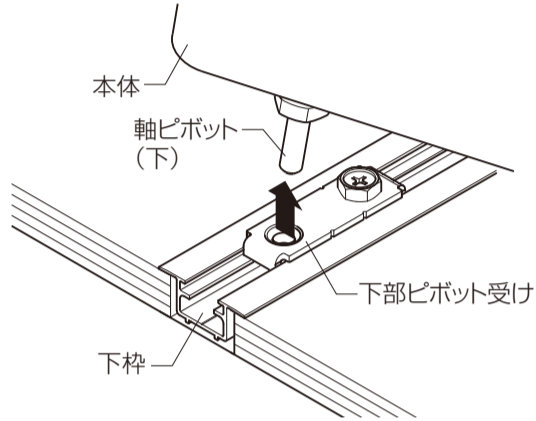
①下部ピボット受けのボルトをゆるめます。



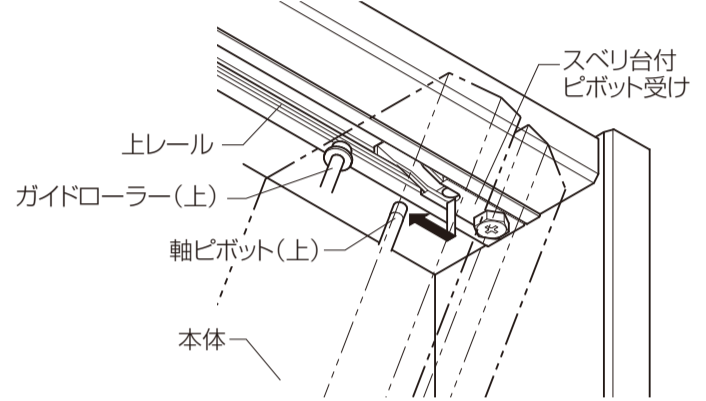
②本体を2枚そろえて、本体の下方をゆっくりとズラして傾けます。



③本体を持ち上げ、軸ピボット(下)を下部ピボット受けから外します。



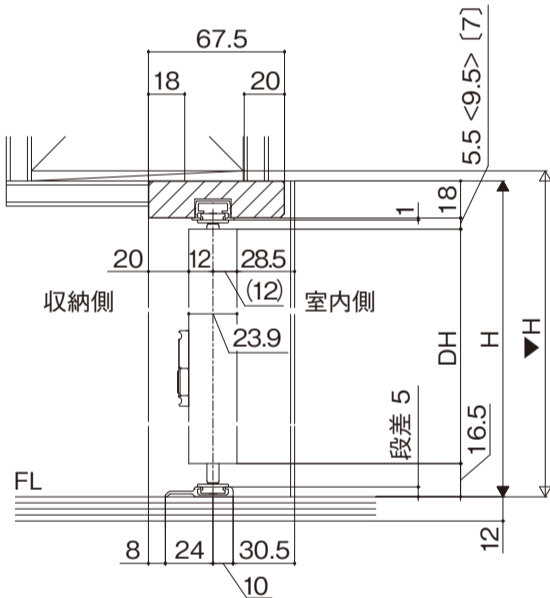
④さらに本体を傾け、軸ピボット(上)をスベリ台付ピボット受けから外します。



■納まり図

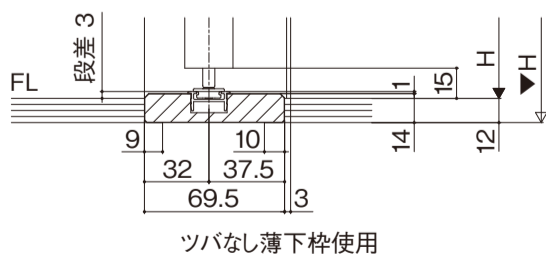
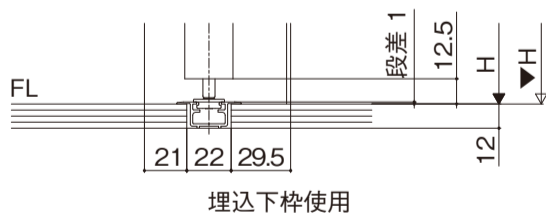
■クローゼットドア折れ戸 ノンケーシングタイプ

●縦断面図

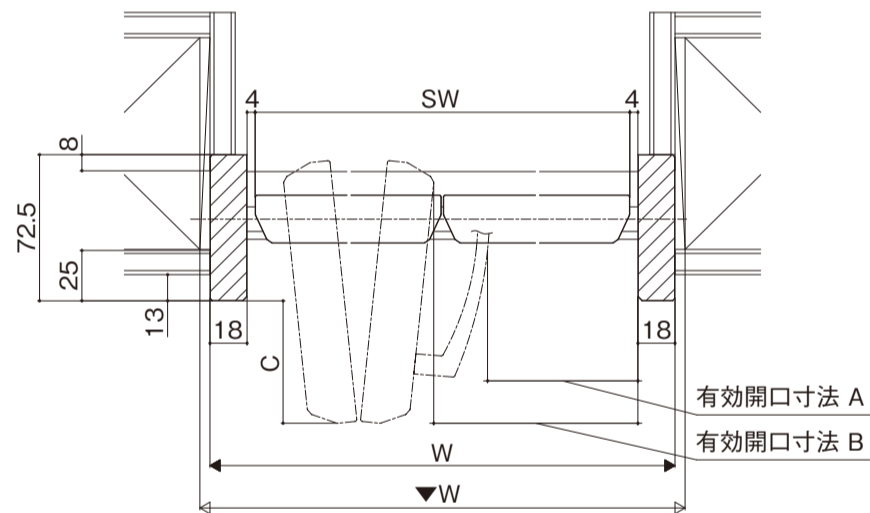


※<>内は埋込下枠納まり、〔 〕内はツバなし薄下枠納まりの寸法を示します。

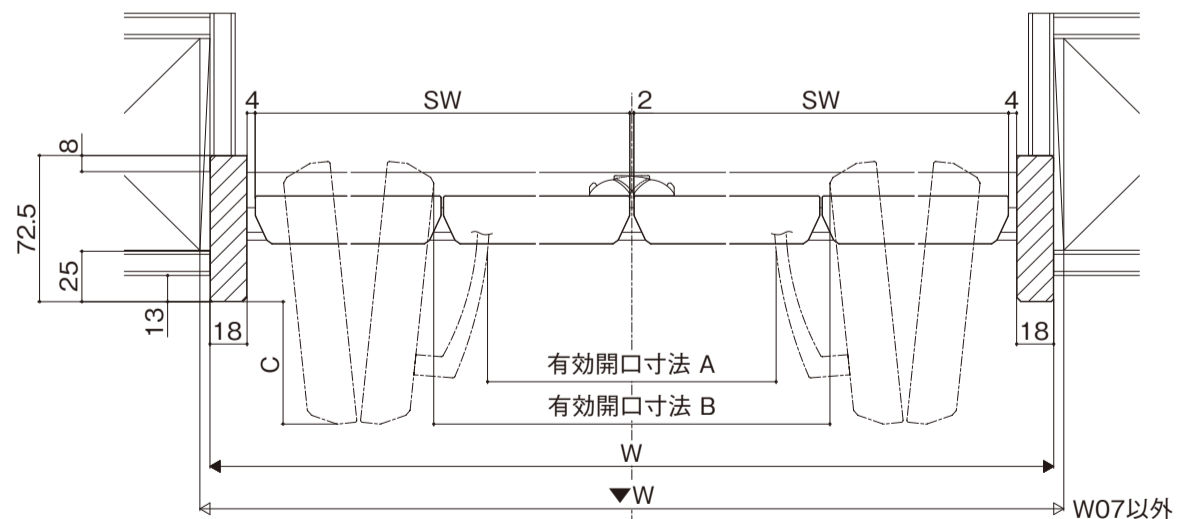
フラット下レール使用



●2枚建 横断面図



●4枚建 横断面図



W07

W07以外

基本 寸法 (mm)	W呼称	07	12	16	17
	W(SW)	734(690)	1188(571)	1644(799)	1708(831)
	H呼称	20	23		
	H	2023	2306		

W呼称	W	A寸法	B寸法	C寸法
07	734	572	593	276.5
12	1188	900	942	217
16	1644	1356	1398	331
17	1708	1420	1462	347